聖書の成立を知り、解釈を学ぶ

聖書神学

●聖書に、何が伝えられているのか

聖書学/ 聖書神学とは、私たちの礼拝の中で朗読される聖書に、何が伝えられているかを解明する学問です。説教は、教会によってたてられた説教者が、聖書に基づいて語るときに、神の言葉として聞かれます。説教者が自分の思いを語るのではなく、聖書が証しするキリスト御自ら語ってくださいます。

●勝手な読みこみを批判し、吟味する学問

しかしどのようにして、説教者の勝手な読みこみと、聖書それ自体が聖霊によって証言する主の御心を聞き分けることができるのでしょうか。聖書学/ 聖書神学は、聖書のテキストを、それが語られた歴史の中に戻し、本来どのような歴史の中で、何を告げようとしたものなのかを解明します。またそのテキストが、どのように伝えられ、解釈されてきたかを学びます。それによって、私たちの読みを批判し、吟味するのです。学んだ人は、聖書の成立や伝承の歴史を知り、釈義の手法を身につけ、語学、文献学、文学、歴史学、考古学といった財産を得ることになります。

●「旧約聖書釈義」の授業紹介

聖書を歴史のコンテキストの中で読む面白さを学びます。

「旧約聖書釈義b」は釈義について学ぶ授業です。釈義とは、聖書を読み、聖書がわたしたちに何を伝えようとしているのか、を様々なアプローチで考察、決定することです。いわば、説教の土台ともいえる重要な学びです。

授業ではそれぞれのアプローチについて、また何故、このアプローチが有効なのかを、学生が発表します。そして、大住先生による学生への質問や解説が行われてより学びを深めています。

神学校の学びが実際に牧師となったときにどのように役立つのか、何故、神学を学んでいるかを実感できる授業です。

2013年度 学部4年 安藤果菜

神の真理を総合的に明らかにし、神讃美へと至る

組織神学

●教義学を中心に、倫理学、弁証学の三分野から成る

組織神学は、神の恵みの真理をできる限り深く解明し、それを責任的に証言しようとする学問です。「教義学」は、神の啓示を証言する聖書に基づき、父・子・聖霊なる三位一体の神とその御業を、体系的、組織的に考察します。「倫理学」は、キリスト者と教会が具体的な生活の場でどのように振る舞い行動すべきなのかを考察します。そして「弁証学」は、現代社会にあってキリスト教に向けられるあらゆる疑問に対して、福音の真理を明証しようとするものです。組織神学は、それら相互の関連を総合的な見地から明らかにし、一貫した整合的理路を見出そうとするものです。

●教会とキリスト者を支えて、神を讃美する

神学は人間の業ですから、誰が試みた神学も完全ではありません。常に「より深く、より明らかに」祈りをもって神の真理を解明し続ける旅人の神学です。そのようにして人類に、「世の光」としての神の真理を伝え、教会とキリスト者の信仰を支え、神の御名を讃美します。組織神学は知的興奮が神讃美に至る素晴らしい学問です。

●「組織神学」の授業紹介

現代社会に福音をどう宣べ伝えるかという課題を掘り下げます。

組織神学Ⅱbの授業では、キリスト者として社会の中でどのように生きていくのか、過去から現代に至るまで人間がどのような倫理基準をもって生きているかについて学んでいます。今、教職課程の授業を受けていますが、いじめや不登校、家庭、学校、社会の人間関係の中で傷ついて自分の中に閉じこもった生徒たちが再び生きようと思うためには、やはり人との関係が必要です。キリスト者としてどのように関わることができるのか模索中ですが、大事なことは聖書が証している神を知ること。組織神学Ⅱの授業が答えの方向性を示してくれている気がします。

2013年度 学部3年 菊地美穂子

2000 年の諸教会の歴史を学ぶ

歴史神学

組織的発展に注目します。それらの研究によって、現代教会の今後の形成のために具体的な諸指針を学ぶためです。

●歴史神学／教会史とは

歴史神学/教会史とは、歴史学という学問的ファインダーを覗き、いわば2000年にわたり世界史道路を走行してきたキリスト諸教会バスの信仰的活動の歩みと、それらの信仰・実践の総資産を撮影し点検する学科です。「歴史神学」は、主に教会バスの燃料にあたる福音理解などの神学思想史、「教会史」は、バスの車体にあたる礼拝と祭儀、教会制度や

●古代から宗教改革を経て現代まで

学部では、古代から現代日本までの教会の歩みを辿る教会史Ⅰ～Ⅴ、教理史（選択）、世界と日本の宗教史、ラテン語（選択）などを学びます。大学院では、古代から現代までの欧米、日本の教会の教理史、神学思想史、霊的生活史などの科目が開講され、学部での学びが更に深められるようコースが用意されています。

2013年度 大学院博士課程前期課程1年
加藤直樹

●「教会史特講」の授業紹介

信仰や教会の様々な歴史に触れると現代が新しく見えてきます。歴史神学は未来を見通します。

棚村教授の教会史特講では、時代や地域を異にした、数多くの神学思想（神学思想家）を学んでいます。本年度は、17世紀～20世紀の日本・欧米の資料を用い、その中に描かれている教会の姿や信仰理解を読み取っています。

さらに、この講義において特徴的な学びは、日本と欧米の資料を比較検討し、国際的な教会の関係を見出していく点です。日本にある教会は、どのように欧米の教会から信仰を継承されてきたのか、独創的な研究のひとときです。

時には軽快なジョークも飛び出し、深く楽しく教会史を学べる講義です。

牧師になるための実践的な学び

実践神学

して用いられるために「説教学」「礼拝学」「牧会学」「キリスト教教育学」「教会の法と制度」の学びが必要になります。

●神の実践に参加するために

実践神学とは、もともと「牧者の学」「司牧学」と呼ばれていました。現在は「神の実践」すなわち「神の救済行動」を主題とすることを明確にするために「実践神学」と呼んでいます。牧師のつとめは、生きて働かれる「神の実践」に参加させていただくことです。「神の実践」とは「神の救済の御わざ」です。神の救済行動の中で人間が神の道具と

●召命と自己吟味の課題も

神が主導権をとってくださる時、人間が〈牧者・羊飼い〉としてたてられ、神に用いられる奇跡がおこります。一人の人間が〈牧師〉とされる「神の召命」について学び、自己吟味する課題も『実践神学』の重要な学びのひとつです。十字架の福音の伝道によって神の民を集め、神の国を待ち望む『日本伝道論』は、実践神学の主要な関心です。

2013年度 学部4年
飯島喜世恵

●「教職概論」の授業紹介

ディスカッションによって学びの課題をしっかり把握する力を養います。

「教職概論」の初回授業で配布されたのは、教授が準備されたテキストと諸資料でした。中学、高校の宗教科教職免許を取得するために必要なこの学科は、教授のレクチャー、テキスト分担箇所の学生の発表、意見交換によりなされます。

学生たちには積極的な意見交換が求められ、真に学識豊かな教授と、年齢や入学以前の背景が様々に異なる学生たちと共に学ぶクラスは楽しく、恵みに満ちています。無駄なことは何一つなく、国際的な視野の広がりの中で、見識や課題を正しく把握する力を身につける経験を重ねることができ喜んでいます。